



中央大学工学部 電気工学科同窓会誌

第3号

発行所 東京都文京区元町2の37 中央大学工学部電気工学科同窓会(電話921-3352,3055)

新校舎建築について

広瀬 敬一

わが中央大学工学部も創立以來すでに十二年に達し、その内容も教員・装置の点については十分に充実し、卒業生も漸く社会の第一線に活躍する気運となつた。しかしその校舎に關しては甚だ芳しからぬ状態であつて、元町実験室は狭隘にして、学生はあたかも羊を洗つような有様であるし、後寮園校舎は、いつ倒壊するかわからぬいよゝな寒心すべき状態である。

工学部校舎新築の件は、すでに数年前から春日町の高台に数千坪の建物を建設する計画が進められていたが、いろいろの事情で延び延びとなつて来たが、昨年末、理事陣の交替とともに、たまたま昭和四十年が本学創立八十周年に相当するので、その記念事業の一環として工学部校舎新築の件が正式に取上げられた。また、わが國の産業の驚くべき発展に伴い、高級技術者の大量不足の問題が起り、また、更に基礎的學問の研究の必要性が強く叫ばれて来たので、これらすべてを検討して、この際工学部を發展の解消して、新たに理工学部を創設し、それに伴つて定員を大巾増加することが計画され、先程それぞれ必要な委員会の承認を受け、九月三十日に文部省へ申請される運びとなつた。

新計画によれば、校舎は総面積六二五〇坪で、教室・研究室などを含む二棟と実験実習工場との三棟からなり、地上六階、一部地下室を含み、来年、あの高台に完成した際は、その望むたる偉観は新名物となるであらう。

学科編成は、現在の四学科をそれぞれ二つのコースとし、土木工学科は土木、都市計画、精密工学科は精密機械、計測制御、電気工学科は電気、電子、工業化学科は

工業化学、化学工学のコースとする。また、その他物理学科、数学科及び管理工学科の三学科を新設する。

総定員は四八〇名とし、実際は多少余分の学生を採用すれば、現在の約二倍の学生となり、他学部の世話にならないで独立して経営することができると見込みである。更にこれらの計画の完成した際は、更に学科の増設とか技術相談所(仮名)を設けて、広く中小企業に技術指導に当たるとか、または高等専門学校に創設など、いろいろと学校の發展を計画している。

この三月の入志願者の数は定員の二十五倍(電気科は三十倍)を越え、卒業生の採用申込は卒業生の約八倍を越えるなど、本校の發展は目ざましいものがあることをつけ加えておく。(工学部長)

第九回

同窓会総会

開催される

既に会員諸元にご連絡致しましたように、昭和三十六年度同窓会総会が、去る六月二十五日午後三時より黒門会館で開催された。

当日は会場と小雨のバラつく、はつきりしない一日でしたが、本瀬工学部長・原田同窓会会長を始めとする教員並びに同窓会々々多数の参加を得て盛大に行われた。

会は楽しい雰囲気の中に広瀬部長、原田会長の挨拶に引続き新会員代表の梅田君の挨拶、会務会計報告、各期会員代表の話等、無事に進行し、午後五時半頃解散した。なお、会計報告の終りに会計幹事より次のような会則変更の件が提案され、満場一致で可決された。会則 変更

同窓会規約第七條

(変更前)

本会の経費は入会金、年会費、寄附金にて行なう。会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。昭和三十六年度現在入会金は金壹百円、年会費は金壹百円である。

(変更後)

本会の経費は終身会費、寄附金にて行なう。会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。但し昭和三十六年度終身会費は金五百円とする。

側線を引いた部分が今回変更された部分で、今年年会費の徴収率が非常に悪いので、その点を改善するため取られた処置であつて、第六期以上の方々は既に五百円以上の会費を納入したことになるが第七期生以後は第七期生迄百円、第八期生式百円、第九期生参百円の不足額を徴収することも総会席上で了解を得た。それで総会に出席されなかつた各期の方々にもご協力お願い申し上げます。(幹事)

ろと
ごこ
のう
ご思



吉久信幸

今年の夏は、すいぶん暑い日が続きましたが、卒業生の皆さん、お元氣ですか。

黒門会館の同窓会総会には胃がいれんを起した翌日の日でしたので欠席して失礼しました。卒業して二、三ヶ月過ぎるとセビロの着こなしも上手になり、すっかり立派なお婆になつたのを拝見するの

は私たちの祭しみの一つなのですが、本当に残念でした。

今日は雨の降る涼しい日です。秋が一月早く来たような感じの日です。秋の夜、少しのお酒を交しながら、人生の長びや悩みを静かに話したいものです。

高等学校の時に面白い先生がいて、「人間は金づちではありませんよ」という言葉を何十回も聞かされた。この先生の演説は、いつかこの言葉から始まりました。金づちは沈んでも必ず浮き上がる。人間は沈んでも必ず浮き上がる。このことです。また別の先生の著書に「人生には雨の日、嵐の日もあるけれど晴天の日もある。……これらの言葉は私のスランプな時に大さな励みになりました。この頃思うことですが、人生には嫌なこともあるけれど、在りも多し、生きていることは楽しいことです。心に戦慄の歌が力強く響く時、生きる勇氣も全身にみなぎり、全く幸福な時だと思えます。

ヒルレイさんの幸福論の中の工エウテトスの言葉「世には我々の力の及ぶものと及ばぬものがある。我々の力の及ぶものは、判断、努力、欲望、嫌悪など一言で言えば我々の意志の所産の一切である。我々の力の及ばぬものは我々の肉体、財産、名誉、官職等我々の所産によらぬ一切のものである。……世の中には自分の思い通りに行かないことが多いです。金は手に入つてみないと分らないという誇りがありますが、金銭だけでなく、職業も運命的だと思われれます。卒業生諸君の中には職業のある人もあるかも知れませんが、どうしたことで悩みの日々を続けることは不幸なことです。自分の与えられた仕事を誠実に一生懸命に行なつたら、いつかはその努力が報いられる日が来ることでしょ。人生は曇天ばかりでなく、晴

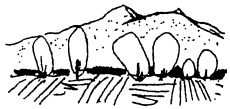
天も必ずやつて来ます。

七月の下旬に学生と専科高原で四日街生活を共にし、いろいろな向題で討論しましたが、私の一番うれしかったことは学生が理想を求めていることでした。卒業生諸君も大学を卒業するときには各人それぞれ理想を持つて社会に門出したことでしょうか。それが毎日の仕事に追われて、また種々の障礙にぶつかりたりして、理想を捨てた人もあるかも知れません。しかしながら、若い人が理想を持つて生きなければ世の中は進歩しません。社会の発展もありません。

人と人との向にはすいぶん誤解があるものです。人の言葉もろその人の考えと違つて受取られることもあるのですから、第三者を通した場合には誤解され易いでしょう。そうした誤解から対立の気が生ずるようになることも珍目です。対立の気があつて話合つた場合には事毎に誤解されます。我々日本人の先祖は和ということ

を理想としていました。この頃思ふことですが、和の精神が今の世の中に大切だと思ひます。人と人とが対立するのではなくて、和やかに話し合つて、お互いの立場を理解するように努力する精神が欠けているように思われます。心に大きな理想を持つて和やかな空気の所で楽しい生活を続けたいというのが、この頃の念願です。(最近はおまわり物考えることをしなくなり、また夕書きの文章を書きませんので、拙文で失礼しました。電話が昨日用通、小金井一五〇三番です。)

(三六・八・二三)



アメリカの思い出

吉江実成彦

昨年九月八日から十月二十八日迄、社長夫妻及び同僚と共に米國へ海外出張をした。出張の目的はわが社が日本総代理をしている加州、ロアルト市にある測定器メーカー「ヒューレット・パッカード社」で測定器のトレーニングをする事と、各地の取引商社及び工場を廻ることにあった。仕事の内容はさて置き、これから私のアメリカ見て歩きを書くことにしよう。併して※「お詫び」(参照)目をまわしたほどだ。たばこは民間会社の手になっており、非常に安価である。十個単位で買つと一個八十五円位だ。彼等の収入から及ればアメ玉を買つようなものだ。だから彼等は誰にでもたばこをすすめるのだとひがみたくなる。何処かの政府みだいに高くてもうまくなりたいをやるのは、やめにしてもらいたいものだ。併し、他國へ行つて日本の有難味が分つたのが一つあった。日本の水は非常にうまい。だから美人が多いのかも知れない。実際、日本女性に美しい。大粒粒が揃つていると思われる。米國女性は十代が一番美しい。

会社では勤務時間が非常によく守られる。真摯な気性の所為と思われる。実際、真面目によく働く。八時に始まり、四時に終る。四時になるとさつさと帰る。初めのうちには中途半端だから、もう少しやろうと思つていたら、帰れと注意されたほどだ。しかし、おエラ方は五時、六時と仕事をやって行くのがまよあること。平日は有難いものだ。

シカゴは歴史が古いだけに、お世辞にも美しい街とは云えない。ビルも黒く汚れ、何となく汚ならしい。しかし建物は一皮と高層に

になり、市街全体としては、どつしりとしている。ニグロの多いのが目立つ。新聞売りも多い。土産物を買つつもりで、あちらこちらと歩いたが、日本製品が多く(特に玩具)、やめにした。初めての土地で迷子?にならぬかと思つても知れないが、決して道には迷わない。又又点には必ずストリートとアベニウの名前が書いてあるから、自分たちのホテルのそれを憶えておけばよい。迷子になつたら慌てずに、まずストリートを所用のアベニウにぶつかるまで歩く。所用のそれにぶつかったら今度はそのアベニウを所用のストリートまで歩けばちやんと振出しに戻るよにできています。シカゴでは社長の知人の二世の人と、丁度日曜日であつたのでシカゴ大学の教会へ行つた。本場で説教のわかぬく聞いた。しかし、その嚴肅な雰囲気には自然に頭が下つた。

ニューヨークへは夜到着したため、ジエットから夜家を眺めることができて幸運だつた。

中でも自由の女神の夜景は天下第一である。

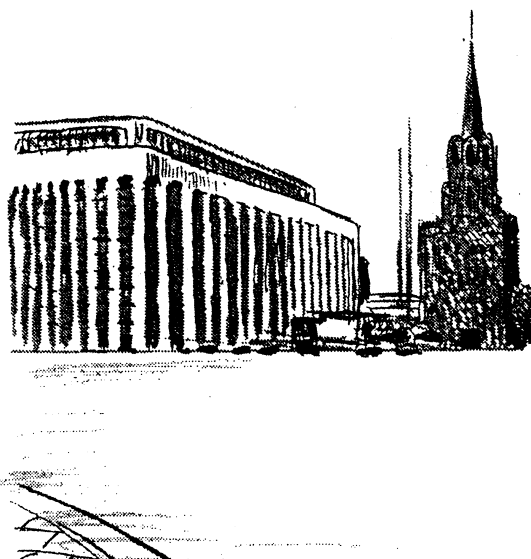
空港から市街に入つて来るとエンプайヤーストリートビル、国連ビル等と次々に大きな建物が目に入つて来る。実際、高層建築の谷間を泳ぎまわつてゐる感じ。昼間、回

連ビルの前へ行き、わが國の國旗を目にしたとき涙を抑えることができません、日本人としての意識を新たにさせられた。

一日遊覧船でマンハッタンをまわる。自由の女神を目前に眺め、偉大なる像に今更ながら驚かされた。このあたりから、そろそろ日本食が恋しくなり、夕食に日本料理屋へ行き、スキ焼、刺身、新香味噌汁で飯をたら飯食べた。

こゝいらでチップの話をしておつた。御承知のように、何かにつけ、チップのいる国である。床屋のチップが大体五十セント(百八十円)、床屋代は三ドル五十セント。タクシーのチップが十セントから二十セント、レストランのそれは食事代の約一割と、こんなもの。チップのために働いてゐるもの。

エンプайヤーストリートビルに登つたが、流石に世界一のビル。上から見下ろすと人間が蟻のように見える。エレベーターも羨望までである。



ポートランド(メイン州)には有名人種は殆んどいない。街を散歩していると子供たちが珍しがつて「ハイイ」と呼びかけて来る。ちよつと有名人になつたよう気分がする。こゝは州法により街で

の酒類の販売は禁止されていると
のこと。レストランに入つても酒
も飲めない。結局ホテルで飲むよ
り仕方がなく、従つて食費も高
つくといふもの。

ワシントンへは完全に観光の目
的で来る。非常に清潔な感じ。ジ
ョージ・ワシントンの家、リンカ
ーン記念館、硫黄島の像、ホワイ
トハウス等を観光。

ロスアンゼルスは少なからず南
団的な街で、日本人町も相当大き
なものである。何しろ日本語が大
手を振つて罷り通つてゐるので感
激した。商店の看板も全部日本語
である。曰く〇〇茶店、曰くXX
書店、△△寿司等々。食べものは
奇しきはじめ、ごんまで大楸の
ものはある。本座へ入り、今流行
の週刊紙を買つた。丁度出発前に
読んだものの次号を完つていたの
で三十七セントを買つた。大体一ヶ
月遅北で入荷するとの話。面白い
もので、日本人町の日本人は何ド
ル何セントと云わないで、何円何
銭と云つてゐる。例えば一
ドル十セントは一円十銭と
云う。ロスでは、ビルトモ
アホテルに宿泊したが、毎
晩のように日本人町へ夕食
を食べに通つた。ホテルか
ら歩いて十五分位のところ
である。外人は食事のとき
人の前にあるものをパスし
てもらうのは決して失礼に
当らないそうである。或る
朝、ホテルの食堂へ一人で
食事に行つたときのことであ
る。カウンターへ腰かけ
て食事していたら、丁度隣
の席へ若い美人がやつて来
て食へ始めた。そのうちに
私の前にあるものを「何々取つて
下さい」「何々パスして下さい」
とやられ、全く閉口しながらも、
自分で取れば取れるものと思ひ、
そのうち「散歩でもしませんか」
と来るんじやないかと等と考へ、恐



怖りの念にかられたことがあつた。
また、ロスに居たとき、一日デ
イズニールランドへ遊びに行つた。
ロスのダウンタウンから時速八十
マイルの車で約四十分。近くなる
につれ模型のマツターホルンが大
きく聳え立つのが見え、大きな期
待に胸が躍つて来る。話によると
子供は一日で十ドルがと二程く消
費すると云う。

品物を買つたとき、決してその値
段で買えないのは面喰つた。必
ずタックスがつくのである。反面
自分で税金を払つた気分になるか
ら、なかなか合理的だと思つた。

今回、二世、三世の人たちと話
し合う機会を持つた中で一番興味
を引いたのは、日本語の「わざ
とか、さび」に附随している「し
ぶい」「はで」といふ言葉が米語
化されて雑誌にこんど紹介され
ているという事実であつた。と同
時に、説明を求められて上手に説
明できなかつたのが実に残念であ
つた。併し「しぶい」とか「はで
とかいふ言葉が米語化され、米人
に使われるということは、彼らが
われわれ日本人をよよく理解するの
に非常に役立つものと私は信じて
止まないものである。(第一期生)

【お詫び】

本文第一段落十二行「併して」
の次に以下を挿入いたします。
※これはあくまで私の見た手
ま感じのままです、これが全てでは
ないことを断つておく。思い出し
たまま筆を走らせましたから、支離
滅裂の点は勘弁願ひたい。

加州地方は地震帯のためニュー
ヨークのように高層建築はないが
柔道のタウンタウンには二十階以
上のビルがざらに並んでゐる。何
かにつけ、持てる國の感じがする
全からしてがそうだ。現在一ドル
当り三百六十円であるが、一ドル
百円位の復分になる。何か買物を
して、後で計算して(以下、第一

段落十二行「目をまわした……」
に続く。

新入会員に望む

杉原 弘

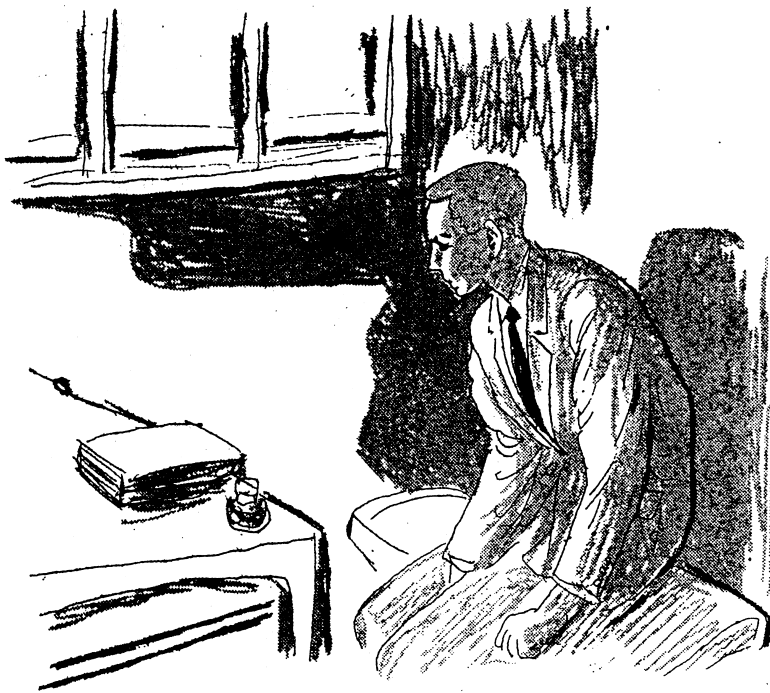
(昭和三十二年夏季)

同窓会も回を重ねること九回になりました。私も例年出席させて頂いておりますが、今回は会社の都合で出席できず残念に思っております。この間に直接お目に掛かれませんが、若さに溢れる新入会員を迎えることは何より喜ばしいことです。この会を通じて恩師と卒業生及び同窓生間のつながりを持つことは云うまでもありませんがこの会を通じて何が参考になる話を御披露することも無益でないと思えます。

実は私、このまゝ同窓会のY君の結婚式に招待されて出席させてもらったのですが、このとき例の如く媒約人がY君の人となりを紹介されました。以下、そのときの話の一端を簡単に述べますと次のようであります。

「Y君は非常に熱心な優れたエンジニアでありまして、中央大学工学部電気工学科を卒業されると直ちにわが社へ入社して向しました。同君が入社して向もなくこんなことがございました。ある晩十二時頃誰か私の家の玄関を叩く者がありました。今時分一体誰だろうと思つて出てみたのであります。それがこのに居られるY君であり、手に図面を抱えて私にこの図面を見てくれと云うのであります。私が眠い目をこすりながら図面に目を通すと何と向達いの多い図面を、しかも真夜中に持つて来るとは人騒がせなとY君に云つて帰しました。

さて、そんなことがあつて翌朝私が出社しますと、私の机の上に何か分厚い書類が載せてありました。何だろうと、私が何気なくそれを覗いてみると驚きました。これは昨夜私を起したY君の設計図ではありませんか。しかも私の指摘した向達いが全部直つた立派な設計図になつていたのであります。このことは単にY君の仕事に対する熱心さを物語るだけでなく、



石大したものだと思つて感銘を受けました。この態度と努力こそは、われわれ若き技術者の持つべき要素自ののではないかと思いました。特に新入会員諸君においては現在の就職の容易さから、やゝむすれば安んじに流れる気持ちがあるのではないかと。これが私の考え違いであればよいのですが、入社早々のY君の態度は、きつとここにお集りの方々の心に触れる何かがあると思ひます。

「おお蛇足であります。Y君の結婚式には同君の会社の社長、専務取締役、取締役、課長等の方々が大勢出席され、盛大でありました。披露宴の後、Y君は才媛のベター・ハーフと共に羽田から飛行機で関西へ新婚旅行に放されたりました。

「お媒約人は同会社の取締役でもあり、これはY君の熱意が、その方をして媒約人を買つて出られたのではないかと私は想像するのであります。

「われわれもY君に負けて各々の分野に於いて大いに頑張らうではありませんか。新入会員

同君の独創的な發明や論文に対し電気学術雑誌のオーム社よりオーム賞を、更にわが業界の鉄道信号技術会より二回も賞を受けて、同君の優れた実績を証明しているのであります。」

「この話を聞いて私は思わず涙

の諸君も、Y君のような立派な先輩がいるのだということを感じて、希望をもつて職務に当たるよう發調して止みません。

(昭和36年6月21日)

會員異動

(敬 買)

山下美雄 先生(昨年二月女子誕生)
 吉久信幸 先生(小金井市貫井南町二の三
 三九)
 中井達人 先生(千葉県松戸市金ヶ作字金
 ヶ作八二の二)
 山口高文 先生(昨年十二月結婚)

(第一期生)

田中平八君(昨年五月結婚)
 吉江実彦君(昨年九月社用にて渡米約二
 ケ月、同年十一月結婚)
 平林 実君(山武ハネウエル計器KK)
 松田 義雄君(建設省東北地方建設局・仙
 台市北三番町一四)
 佐藤計士君(福島県田村郡小野町大字小
 野新町字寺下一〇一・福島
 県立小野高等学校)

(第二期生)

戸村正夫君(昨年五月十一日女子誕生)
 小笠原健蔵君(昨年十一月五日結婚、本年
 九月西ドイツへ出張約十ヶ
 月)
 池田 澄男君(昨年二月十七日男子誕生)
 大塚 章君(郵政省電気通信監理官室、
 技術係長)
 密山 順君(特許庁審査第四部電氣)
 小林和夫君(本年五月結婚・大宮市東大
 坂一、県営住宅RC四〇九)
 山本 憑君(東邦電気KK門司出張所、
 門司市内本町九の八中和ヒ
 ル二〇二号)

(第三期生)

井田義男君(世田谷区仲町三の二一公社
 アパート一〇四)

(第四期生)

堰中武和君(世田谷区船橋町九七三、西
 経堂田地一の一〇三)
 宮沢文男君(防衛庁)
 秋山 武君(東京精密工業KK)

河原正夫君(東洋オニ工場)
 畑田豊治君(本年九月米国出張)

(第五期生)

馬場 猛君(練馬区旭ヶ丘一の五田中山
 方)
 今井徹也君(クラウンKK……社名変更)
 木内将麿君(東洋棉花KK)
 庄司俊兵衛君(西宮市下大市東町二〇三)
 小宮山 隆君(小宮山製作所)
 鎌 練之助君(埼玉県川口市本町、ケーブ
 ルアクセサリー研究所)
 平原喜八郎君(日本通信機)
 田中 武君(世田谷区船橋町二二三)

(第六期生)

伊波明彦君(ケント科学研究所)
 萩野道重君(神奈川県平塚市南原二八三)
 木村茂夫君(本年十月九日結婚)

(第七期生)

佐々木 裕君(富士通信機製造KK)
 福島 正喜君(昨年十二月結婚、神奈川県
 秦野市入船町二の二、日
 日鍛バルブ製造KK)

(第八期生)

田伏良雄君(東海村原子力研究所)
 山田良平君(小金井市中町二の一六青山
 方)
 半沢久生君(千葉県松戸市金ヶ作八二の
 一一)
 藤井 満君(昨年十二月結婚)

(第九期生)

葛村徳雄君(埼玉県大宮市土手町三の八
 九)
 小林貞次郎君(北多摩郡清瀬上清戸五四九
 菊地方)
 島田好宏君(府中市美寿町二の五六池田
 方、芝浦製作所)

編 集 後 訂 記

第三号が出来ましたからお届けします。相変らず
 原稿が集まらず小林兄が大分骨を折った様子。感謝
 します。第四号の原稿と、各会員移動と近況につい
 て幹事までお知らせ下さい。(吉江生)